

標 題 : Mediterranean Diet, Alzheimer Disease, and Vascular Mediation
地中海食事、アルツハイマー病、および血管の介在

著 者 : N. Scarmeas, et al. (米国 コロンビア大学 アルツハイマー病および加齢脳の
研究に関する Taub 研究所)

掲 載 誌 : Arch. Neurol. 63: 1709-1717 (2006)

要 旨 :

目 的 : 地中海食事(MeDi)とアルツハイマー病(AD)との関連を異なるアルツハイマー病の人々で検討して、血管経路による介在の可能性を研究すること。

計画、設定、患者、主な結果測定 :

ニューヨークの住民コホートに入れ子にした、症例-対照研究。

コホート、年齢、性別、民族、教育、アポリポタンパク E 遺伝子型、カロリー摂取、喫煙、医療併存疾患指数、および BMI[体重(kg)を身長(m)の二乗で割って計算]を調整したロジスティック回帰モデルで、地中海食事の順守(高い順守を高スコアとする 0 から 9 点)をアルツハイマー病状態(アルツハイマー病患者 194 人 対 1790 人の非認知症者)の主な予測因子とした。

血管系の変数(脳卒中、糖尿病、高血圧、心臓病、脂質値)を同時にそのモデル(介在の証拠を構成する)に導入したときに、地中海食事とアルツハイマー病との間の関連が弱まるかどうかを、我々は研究した。

結 果 : 地中海食事の高い順守はアルツハイマー病の低いリスクと関連した(オッズ比 0.76、95%信頼区間 0.67-0.87、 $P<0.001$)。

地中海食事の最低区分(3 段階)の被験者と比較して、アルツハイマー病について中間区分の被験者のオッズ比は 0.47(95%信頼区間、0.29-0.76)で最高区分の被験者のオッズ比は 0.32 (95%信頼区間、0.17-0.59)であった(動向の $P<0.001$)。

血管の変数をモデルに導入しても、その関連の程度は変化しなかった。

結 論 : 地中海食事の高い順守はアルツハイマー病のリスク低下と関連すると、我々はもう一度注目する。

その関連は血管系の併存疾患によって介在されるとは思われない。

このことは、他の生物学的メカニズム(酸化または炎症)が関与する結果または血管系変数の測定誤差の結果であり得る。
